

第7回 SGRA チャイナ・フォーラム

志願者論

宮崎幸雄

日本YMCA同盟名誉主事



災害救援活動とボランティア活動

	阪神・淡路	東日本	四川
発生	1995年1月17日	2011年3月11日	2008年5月12日
マグネチュード	7.3	9.0	8.0
死者	6,434人	16,131人	69,000人
行方不明者	3名	3,240人	18,000人以上
倒壊家屋	249,000棟	275,258戸	216,000棟以上
被災者	不明	386,739人	約4,614,000人
避難者	不明	340,000人	約1,514,000人
ボランティア活動	1,170,000人 3カ月	738,500人 6カ月	約1,300,000人 3カ月

事例Ⅰ 阪神・淡路震災 意識調査1 1995年

ボランティア経験

経験 有 40%

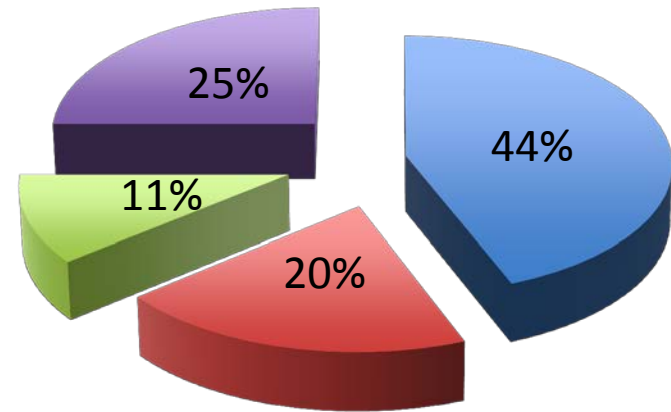
経験 無 60%

性別構成比

男性 40%

女性 60%

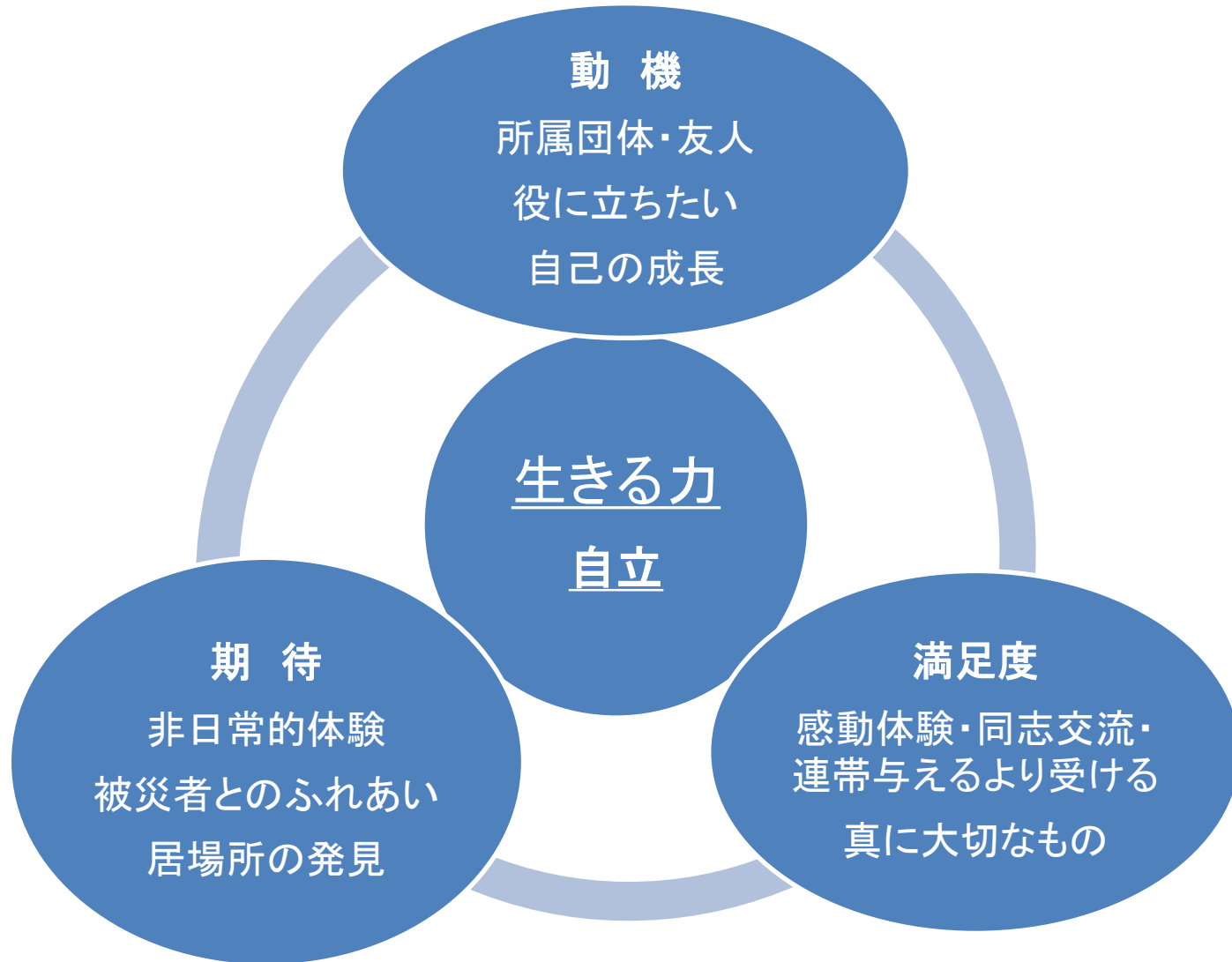
参加者の属性



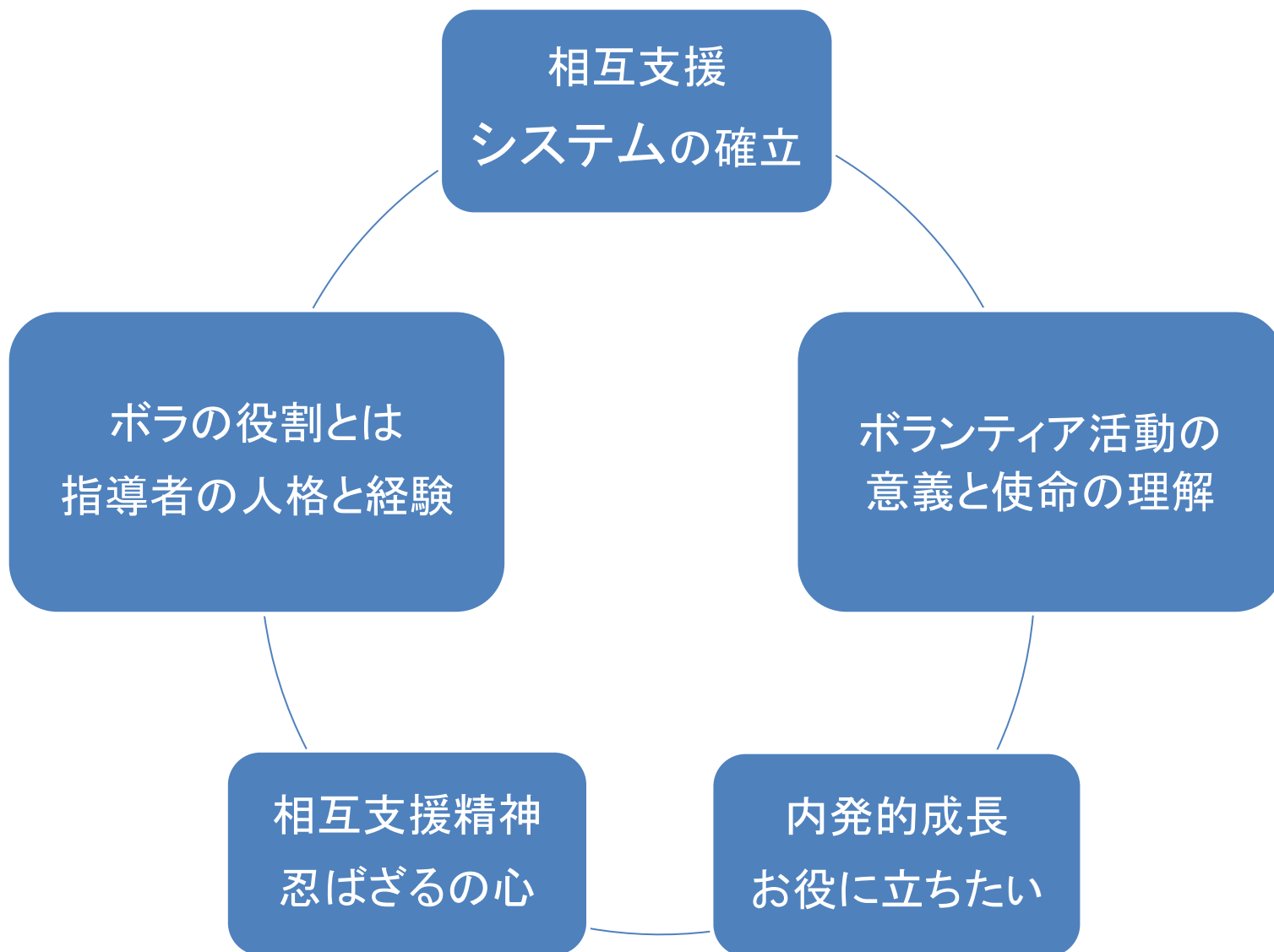
■ 学生 ■ 会社員

■ 主婦 ■ その他

事例Ⅱ 阪神・淡路震災 意識調査2 1995年



事例Ⅲ 阪神・淡路大震災 ワークキャンプ 1995年



事例Ⅳ 四川省震災復興

CODEレポート 2012年

公民社会
民間団体の躍進

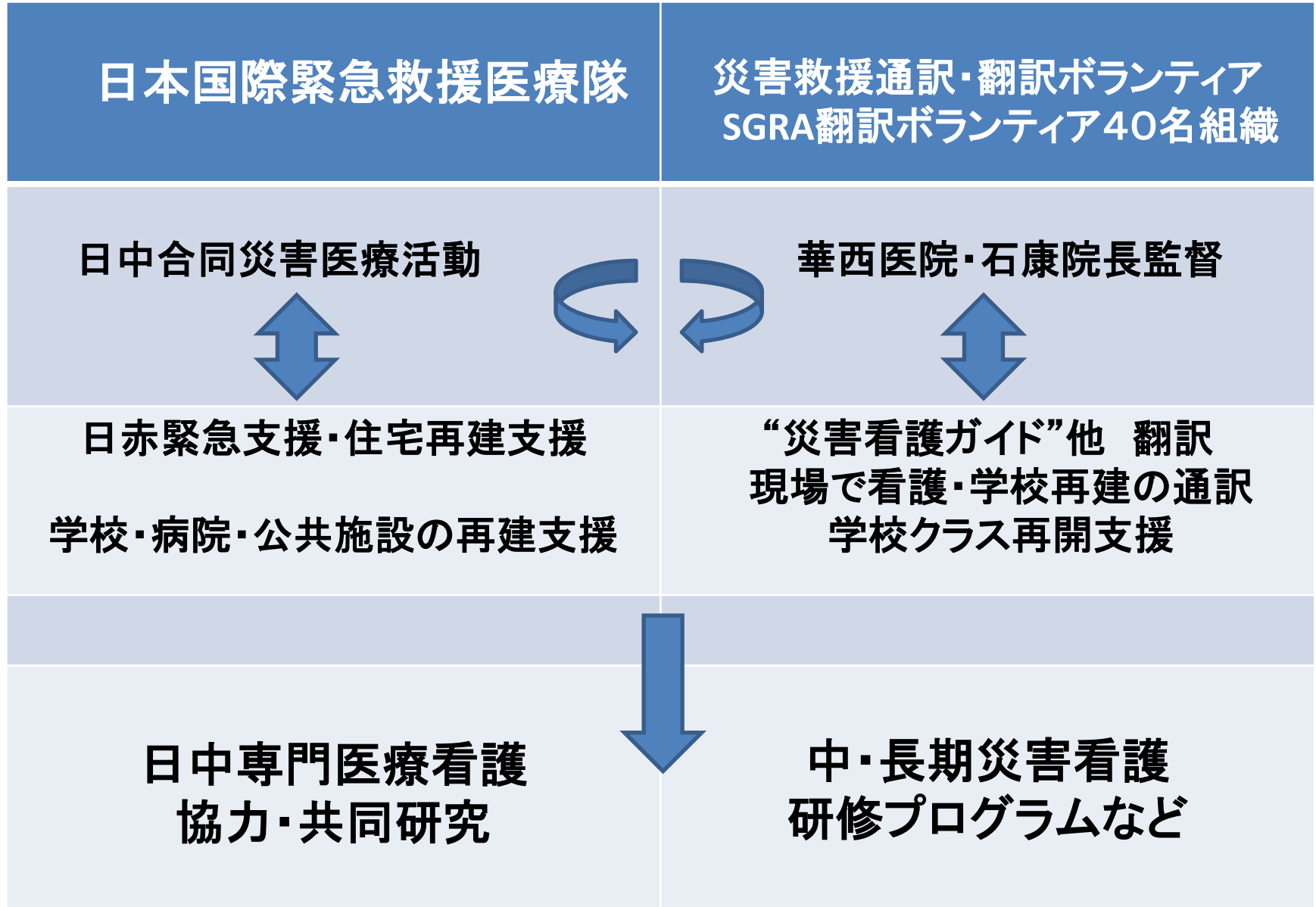
復興発展の不均衡
格差と不平等の拡大

海外民間団体交流
防災共同学習

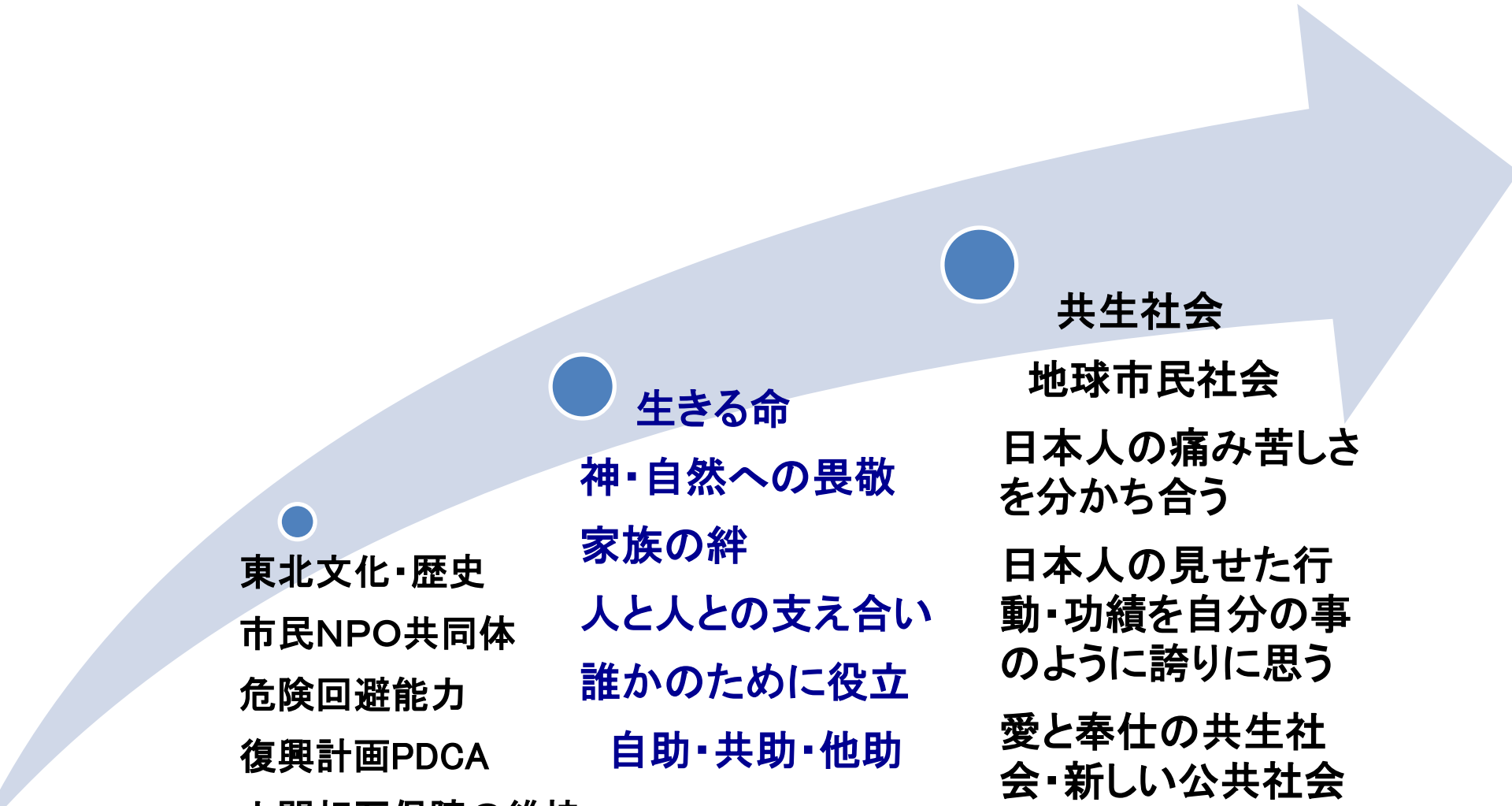
「80後」世代
300万人がボラ参加
人的資源

ソーシャル・メディア
ボランティア力
情報規制

事例VI 四川省災害医療活動 SGRA 2008年



事例Ⅶ 東日本大震災 復興への道程 2011年

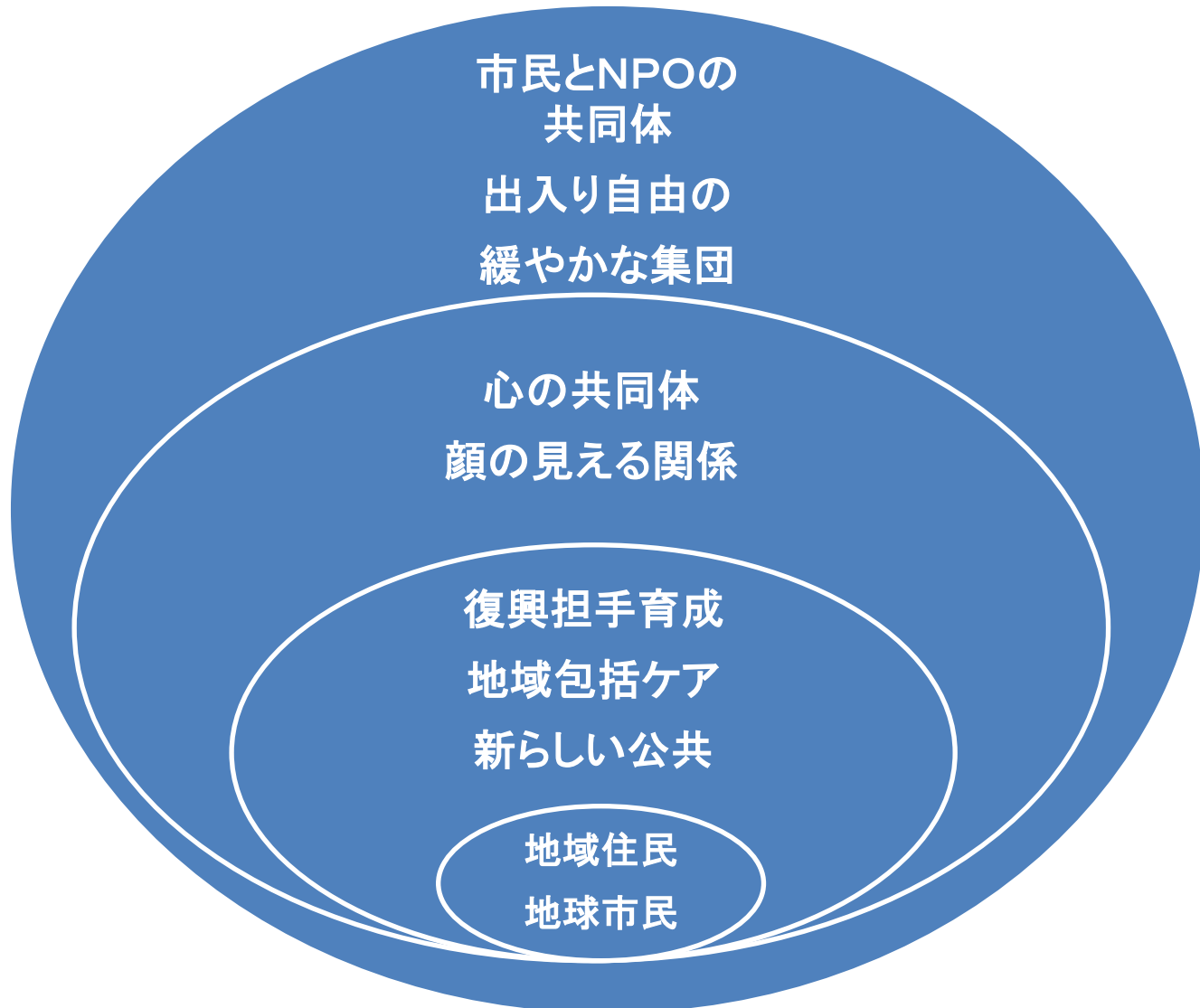


東北文化・歴史
市民NPO共同体
危険回避能力
復興計画PDCA
人間相互保障の維持

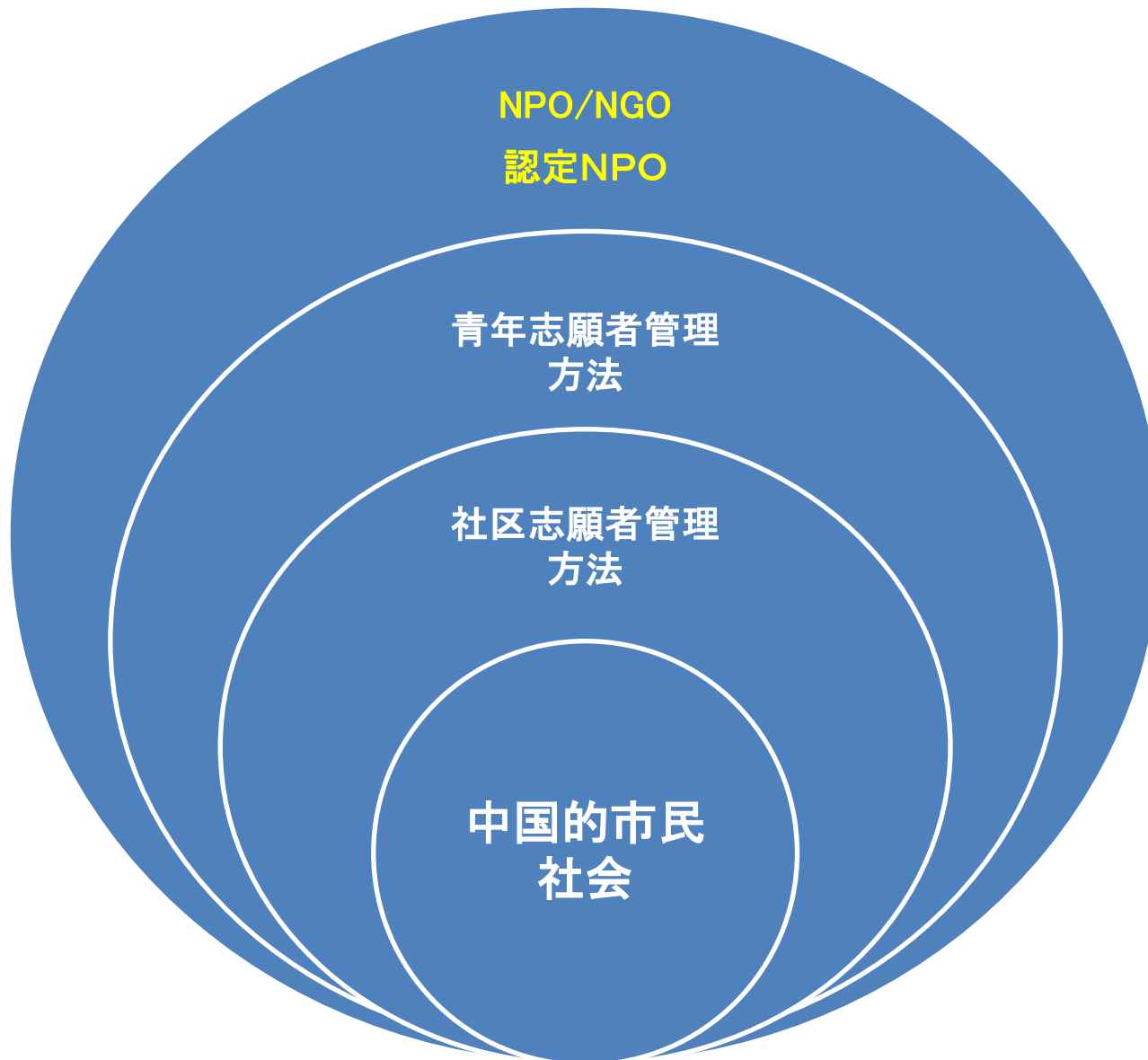
生きる命
神・自然への畏敬
家族の絆
人と人との支え合い
誰かのために役立
自助・共助・他助

共生社会
地球市民社会
日本人の痛み苦しさを分かち合う
日本人の見せた行動・功績を自分の事のように誇りに思う
愛と奉仕の共生社会・新しい公共社会

事例Ⅷ 東日本大震災 変容するボランティア活動



中国志願者活動の制度



現行公的制度

→公民社会・国内/国外のネットワークを活用して多様なプログラムを展開

→2005年制定
8省10市11自治区
青年志願者協会
国家の管理下で海外のNGO/NPOと交流プロジェクトを実施

→2007年制定
地域の共益的なボランティア活動
地方自治体では政府の事業を推進

中国志願者活動の課題

公民社会像

- 人的・財的社会資源の活用
- 調和ある社会の構築

期待される公民社会組織

- 政府から独立した自由で自主的な公益民間組織
- 約40万～200万